

佳作

## びょういんではたらく人たちの やさしさ

愛媛県 松山市立久枝小学校二年 大谷 優芽

わたしはこの夏休みに、お母さんが見ていた「コード・ブルー」というドラマに、きょうみをもっていっしょに見ていました。けがやびょう気で、しにそうになって見ている人のところへ、おいしゃさんがへリコプターでたすけに行くドラマです。

わたしには、生まれつきのびょう気があります。なので、今までにも入いんしたり、けんさしたりする時に、おいしゃさんやかんごしさんのおせわになっっています。はじめてのけんさで、ふあんでこわくてないてしまった時、かんごしさんや先生がやさしく声をかけてくれました。

「大じょうぶだよ。何もこわくないよ。大じょうぶ。」

ないてなかなかけんさができなかつたのに、先生もかんごしさんも、えがおでやさしくわたしをほげま

してくれました。その時のえがおで、わたしは、ちよっとらくになった時もありました。

ドラマの中でおいしゃさんたちがへリコプターであぶない場しょに行つてたすけたり、じぶんにつつたら、しんでしまいかもしれないびょう気の人を、いのちがけでたすけていることがありました。びょういんではたらく人たちは、ごはんを食べているとちゅうでも、かんじゃさんが来るとよばれて、ごはんも食べられなかつたり、じぶんがしんでしまいかもしれないような時でも、かんじゃさんのために、ぜんりよくでがんばっているんだなと思いました。ドラマの中の先生たちだけではなく、わたしがおせわになつているびょういんの人たちもいっしょなんだろうなと思つたら、心がふわつとあたたかくなりました。

ドラマで、おいしゃさんやかんごしさんたち、びょういんではたらく人がきょうカして大へんなことをのりこえているのが、たくさんありました。どんなにすごいおいしゃさんでも、一人ではたすけられない、いのちでもみんなできょうカしたら、たすけられるということにも、かんどうしました。なかまがつてすごいなと思いました。

「コード・ブルー」を見て、びょういんではたらく人たちの大へんさを、たくさんしりました。こんなに大へんなのに、びょういんに行っても、いつもやさしく声をかけてくれたり、わたしの目を見てやさしくわらってくれていたんだとしました。わたしもまわりの人がふあんな時やこまっている時に、やさしくわらいかけられる人になりたいと思いました。びょういんに行った時は、先生やかんごしさんに「ありがとう」の気もちを、えがおでつたえようと思います。いつも、やさしくしてもらっているの、わたしもやさしさのおんがえしができるように、これからがんばろうと思います。